

もしも
災害に備えて地域でつながる

～安全・安心で住みよい美保南を目指して～

鳥取市美保南地区区長会長 西原 牧夫

1 美保南地区の概要

- ・ 西側を流れる一級河川千代川と北東側を流れる大路人川が合流する地域で、地域内を清水川と山白川(用水路)が流れ、古くから千代川の水位上昇に伴う内水氾濫等の水害に見舞われてきた
- ・ **美保南地区自主防災会連絡協議会が中心**となって地域防災力の向上に努めている

人口 : 7,855人
 世帯数 : 3,314世帯
 町内会数 : 20町内会

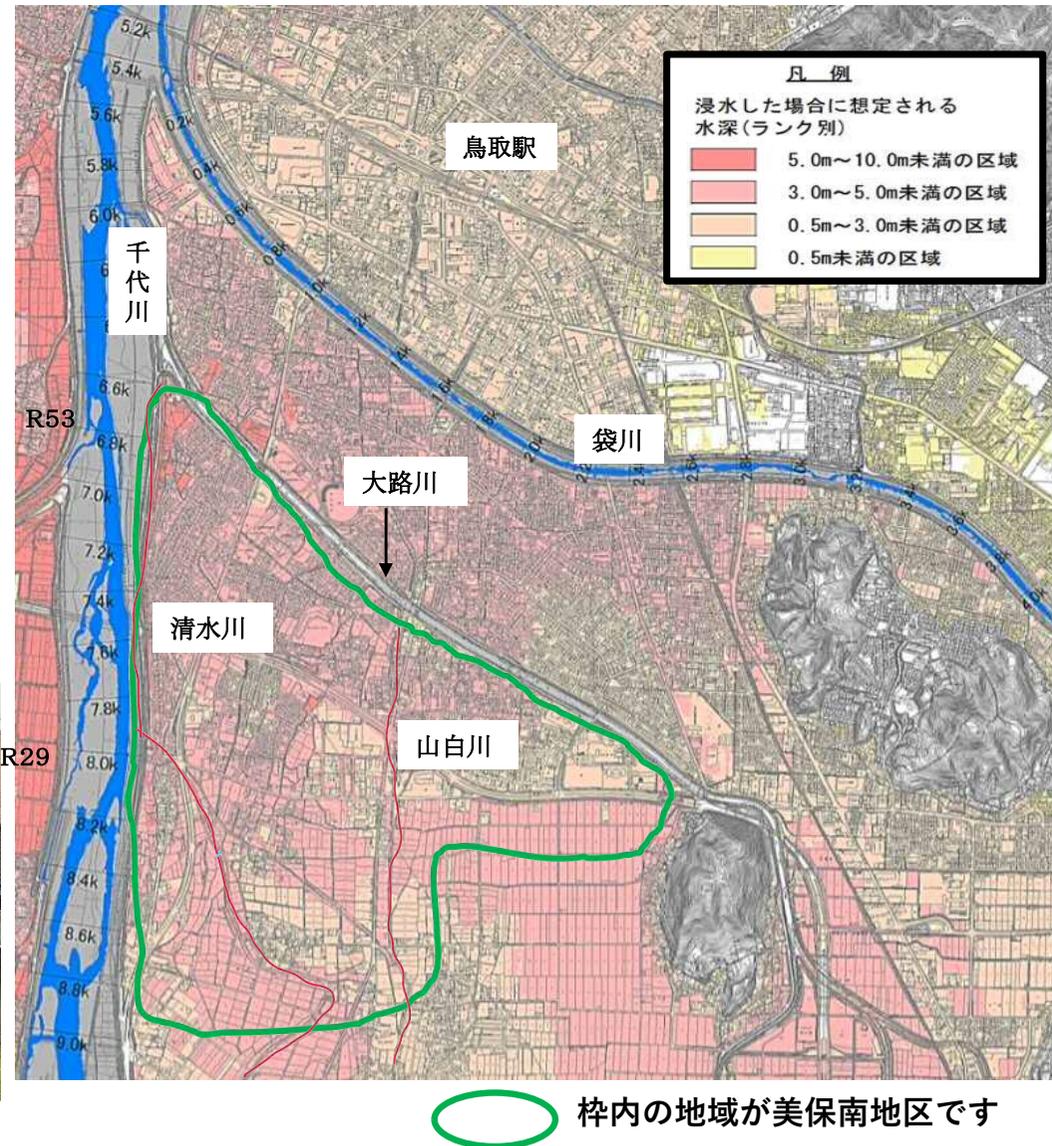
※右図は千代川の浸水想定区域(想定最大規模)で、地区のほぼ全域が3m~5m未満の浸水深となる



平成25年9月洪水
 [写真:吉成地先(住民撮影)]



平成30年7月洪水(西日本豪雨)
 (写真:吉成地先)



災害時における避難所の対応（平成30年の西日本豪雨）

地区自主防災会連絡協議会が中心となり、小学校・公民館に分かれて運営

避難者受け入れ → 美保南小学校校舎の2階・3階及び美保南地区公民館2階
(小学校：230名 地区公民館：80名)

【美保南小学校の状況】

避難者の状況に応じて部屋を分けて受け入れ



2F 多目的ホール（エアコンあり）



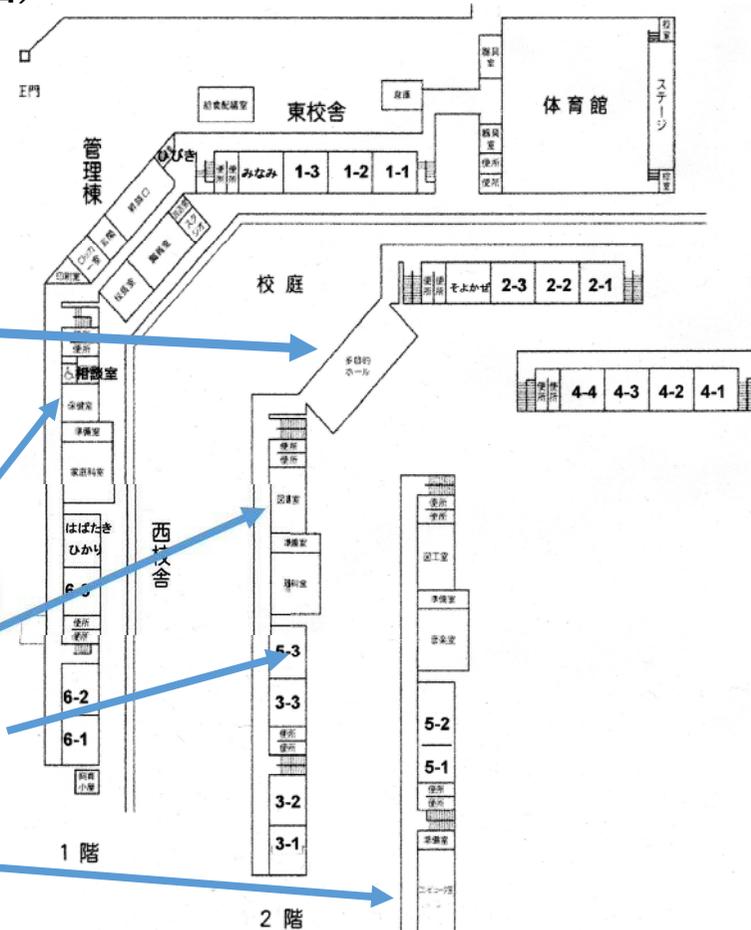
3F コンピュータルーム(エアコンあり)



ベッドの必要な高齢者夫婦
(1F 保健室)

妊婦さん・乳幼児同伴家族
(2F 図書室)

ペット同伴者
(2F 教室)



2 美保南地域における取組

(1) 防災活動・組織の強化

① 町区自主防災活動の活性化

- ・ 専任自主防災会長の配置 ⇒ 19町区が専任(全20町区)

② 防災リーダーの育成・強化

防災活動の中心となるリーダーの育成・スキルアップ

- ・ 防災リーダー養成(経費は自主防災会連絡協議会負担)
登録者：26名 (R6年12月現在)
- ・ 研修会・講習会の開催
応急手当、段ボール間仕切り、ベッドの組み立て
簡易トイレの使用方法、炊き出し器の使用方法等
- ・ 防災資器材点検 ⇒ 毎月点検と試運転



簡易トイレ使用方法研修



応急手当研修



段ボールベッド組み立て研修

(2) 防災意識の向上

① 研修会・講習会の実施

町内会、各種団体を対象に講演会や研修会を開催

⇒ 地区住民の防災意識や知識の向上

速やかな避難行動



中吉成町内会

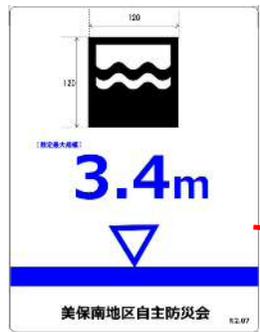


区長会 (20町内会長会)

② 浸水深の見える化

- 自分の住んでいる地域がどれぐらいの高さまで浸水するのかを知ってもらうことで早期の避難行動に繋げる（鳥取県と連携）

設置個所 各町内の1箇所と指定緊急避難場所(公民館・小学校)、民間施設 ⇒ 29箇所



浸水表示板配置図

※●印が所在地を示す。

(3) 避難所開設への対応

① 緊急避難所の確保

鳥取市指定緊急避難場所の収容人数が地区住民数の7%程度
⇒独自に地区内の民間施設(3か所)と協定を結び、避難場所を確保
パチンコ店2店(UFO、ジャンボマックス)、葬祭場(シティホール)



パチンコ店(UFO叶店)立体駐車場

② 総合防災訓練の実施(毎年実施)

災害時における速やかな避難行動と円滑な避難所開設・運営につなげる実践的な訓練

[R6年]

● 日時・場所 令和6年6月22日 美保南小学校 校舎

● 前提条件

- ・前夜からの豪雨で緊急安全確保情報・避難指示情報が発令
- ・美保南小学校、美保南地区公民館を避難所として開設

● 訓練内容

避難者の受け入れ、要配慮者に応じた部屋、プライバシーの保護
資材の配置、照明・充電コーナーの設置、避難者の誘導
トイレ・更衣スペース設置、簡易トイレ使用方法
電動階段昇降車イス体験 等

● 参加者 約110名

防災士・防災リーダー、各町区自主防災会長、各種団体
市職員、県職員 ほか



避難者受付入れ



簡易トイレ使用説明



間仕切り設置



電動階段昇降車イス試乗

③ 防災資器材の整備

整備に当たって、地区の自主財源や鳥取市コミュニティ助成資金及びわがまち防災支援補助金を活用

【整備資器材】

防災倉庫(2か所)、発電機4台、段ボール間仕切、段ボールベッド、エアベッド、大型炊き出し器
簡易トイレ、簡易テント、バッテリー兼用ライト、携帯無線機、感染対策用品 等



防災倉庫(美保南小学校敷地内、地区体育館敷地内)



発電機4台



段ボールベッド 28台



段ボール間仕切120台



50L炊き出し器 2台
灯油・マキ兼用



簡易トイレ 計30台



簡易テント20張



5W 携帯無線機5台



LEDライト21台

3 流域治水への取組

大路川流域（8地区）の関係者が協働して水害対策を行う

若葉台、国府、津ノ井、米里、面影、倉田、美保、美保南

(1) 地域の現状把握 ⇒ 「まちあるきツアー」

地域の現状を知ること、災害対策と早期の避難行動に結びつける

(2) 地域の防災対策

自分たちの地域は自分たちで守る

「雨水貯留タンクの試行設置」

- ・大雨時に屋根に降った雨を一時的に貯留し、水路や河川に一度に流れ出る水の量を調節
- ・公共的施設へ設置することで、見て、効果を知っていただき、地域内への設置拡大を図る



水路の状況を確認



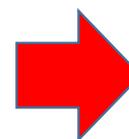
美保南公民館設置



なごみ苑



美保南小学校



町内の集会所に設置が拡大

4 今後の取組方針

自主防災会連絡協議会を中心に、市・県と協働しながら地域防災力の向上に努める

(1) 住民に対して、速やかな避難を促す

- ・ 研修会、講習会の実施
- ・ 町区自主防災会の活性化
- ・ 避難行動要支援者への支援体制づくり
- ・ 避難情報を確実に伝える

(2) 避難所の速やかな開設と円滑な運営

- ・ 防災士・防災リーダーの育成・強化
- ・ 防災訓練・避難所開設訓練の実施
- ・ 防災資器材の整備・充実

(3) 流域防災への取組

「自分たちの地域は自分たちで守る」との認識に立ち、自分のできることから実施する

- ・ 雨水貯留タンクの設置 等

ご清聴ありがとうございました